

令和6年9月17日 発行

本部だより

全国公立小・中学校女性校長会
会長 井口美由紀

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-13 全日本中学校長会館302号
TEL03-3502-0313 FAX03-3502-0075 E-mail:queen@m9.dion.ne.jp

第74回全国公立小・中学校女性校長会 全国研究協議大会 北海道大会

令和6年8月1日(木)・2日(金) 会場:札幌市 京王プラザホテル札幌



開会式 会長挨拶

全国公立小・中学校女性校長会
会長 井口美由紀

挨拶に先立ちまして、今年元日に起きた能登半島地震、そして、今月の東北地方での大雨による被害に遭われました方々に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早く平穏な日常が戻ってくることを祈念いたします。

本日、第74回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会を、壮大な景色と豊かな自然に恵まれた北の大地、北海道札幌市において、このように盛大に開催できますこと、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

本日は公務御多用の中、文部科学省初等中等教育局視学官 藤枝秀樹様、北海道副知事 三橋剛様、札幌市長 秋元克広様をはじめ、御多用の中、御臨席を賜りました御来賓の皆様、また、開催にあたり、力強い御協力・御支援を頂戴いたしました関係諸機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

本会は、多くの諸先輩方の御努力により、女性校長の地位の向上と教育現場における人材育成を図りながら、学校教育の振興に寄与してまいりました。昭和26年、女性校長80名でスタートした当時は、戦後の混乱期を抜けたとはいえ、まだまだ女性にとってはかなり厳しい社会状況の中でありました。しかし「同志よ 弱らないで、誠実は奇跡を生む。」と励まし合い、助け合い、「知性・感性・品性」を大切にしながら、世の信頼を得てまいりました。以来今日まで、その意志や活動が連綿と引き継がれ、ここに第74回全国研究協議大会を開催するに至りました。

昨年に続き、対面での開催となります。本会は、コロナ禍の中でもオンライン等を活用して全国研究協議大会を継続してまいりました。全国各地それぞれの学校の置かれた状況は異なっても、志を同じくする女性校長が集い、教育課題についてそれぞれの学校の具体的な取組を聞き、学び合う機会として、本会主催の全国研究協議大会は、大変価値ある有意義なものと考えます。

6月12日に世界経済フォーラムが公表した2024年のジェンダー・ギャップ指数は、世界146か国中、日本は118位でした。現在開催中のパリオリンピックはジェンダー平等を理念の一つに掲げ、オリンピック史上初めて男女の選手数が同数となると話題になりました。しかし日本に目を向けると労働参加率の男女比や同一労働での賃金格差などの大きな改善は見られず、女性管理職比率の低さは世界的に見ても、低水準のままです。さらに、教育の分野においても細かく見ていくと、識字率や中等教育就学率における男女比は1位であるにもかかわらず、高等教

育就学率に目を向けると大きな男女の格差がありこの点においては107位です。このデータからは、「女性は大学まで行かなくてもよい」という考えが根強く残っていると考えられます。こうした教育格差が就職や昇進などの際の男女の経済格差にもつながっています。社会の中に存在する「アンコンシャス・バイアス」に気付き、それを変えていこうとする子供を育てていくことも教育の大きな役割であり、子供の成長に直接かかわる私たち女性校長の使命と考えます。

変化していく未来を見据え、子供たちに必要な力を身に付け、一人一人の可能性を大きく伸ばしていくためには、そこに関わる教員の確実な育成も私たち校長にとっては、重要な仕事です。今、教員が教材研究に取り組み、児童一人一人と向き合う時間を確保するために、学校現場には多くの人材が投入されています。教員志望者が減少し、教員不足といわれる昨今ですが、質の高い教員の育成にリーダーシップを発揮し、未来社会を担う人材を育てていくという、強い意志とロマンをもって、私たち女性校長はこれからも学校改革に取り組んでまいります。

そして、私たちの会の果たすべき重要な役割には、一人一人が、個性と能力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、女性教員の活躍の場の拡大と女性管理職の育成及び登用の促進を図ることがあります。多くの先輩方と皆様の努力で、少しずつではありますが、教育界における女性管理職は増えてきています。しかし、全体的にはまだまだ女性校長の割合は低いという現状を、私たちはしっかりと受けとめ、これからも意欲と行動力のある女性教員を育て、管理職として活躍できる人材を育成してまいります。

ここ、北海道は、歴史的にも開拓精神にあふれる土地です。明治時代には多くの人が移住し厳しい自然環境に立ち向かいながらたくさんの産業を発展させてきました。そうしてここ、札幌市も、日本有数の住みよさを誇る経済都市となりました。このフロンティア精神を見習い、私たち女性校長は、本会の研究主題「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」副主題「確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営」を目指し、経営力を高めてまいります。

結びに当たり、歴代の北海道の理事の皆様、山下尊子北海道公立小・中・特別支援学校女性管理職会会長、福島由紀子大会実行委員長をはじめ、北海道大会実行委員会の皆様の3年に及ぶきめ細やかな御準備に対しまして、深く感謝申し上げます。そして御出席くださいました皆様にとりまして、この大会が、学校経営に資する多くの示唆に富んだ深い学びの場となりますことを祈念し、私の挨拶といたします。

理事会 会長 挨拶

本日は、夏季休業中とはいえ、校務御多用のところ、朝早くからお集まりいただきありがとうございます。また、皆様には、日頃より各地区の女性校長会の推進役として、本会の円滑な運営にお力添えを頂いておりますことに、感謝申し上げます。

この理事会は、本会の活動をより活性化させ、発展させるための御意見を頂戴する場でもあります。限られた時間ではありますが、有意義なひとときになるようお願い申し上げます。

さて中央教育審議会の特別部会では、5月13日に『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について審議のまとめを発表しました。教師を取り巻く環境の現状から環境整備の基本的な考え方、働き方改革のさらなる加速化へと論を進め、学校・教師がこれまで担ってきた業務について、「基本的には学校以外が担う業務」「学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務」「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」の3つに分けて対応策を各自治体における取組例を挙げながら具体的に例示しています。

「教員の働き方改革」として、学校には教員の事務補佐やスクールカウンセラー、地域と学校を結ぶコーディネーターなど様々な外部人材が入り、ICT機器の利活用が進んだことも含めて、教員を取り巻く環境は大きく変わっています。

本会でも、平成29年度に開催された、文部科学省主催の「教員の働き方改革に向けた勉強会のヒアリング」に、会長が講師として参加し、学校現場の声を伝えてまいりました。諸外国での教育現場と日本とを比較し、教師しかできない業務に集中できる職場環境の整備と、外国語科の教科担任制、教員の事務をサポートする事務補佐を置くこと、小学校高学年の教科担任制の実施、免許更新制度の廃止などを強く提言してきた経緯があります。これらの提言内容は、ほぼ、現在、実現の方向に進んでいます、従って本会の果たしてきた役割は大きいといえます。さらに、私たちにとって、最も重要なことは、誰かから何かをしてもらうのが当然と考えるのではなく、自らが社会にどう貢献できるかを模索し、挑戦する創造力に富んだ人間を育てることだと考えます。私たち女性校長は、地域の特性を生かしたカリキュラム・マネジメント能力をもつ教師を育て、自らも教育は、日本の、そして世界の未来を創るという気概をもって先駆的な学校経営を実践してまいりましょう。

本会が毎年発行しております「活動状況調査報告」によりますと、少しずつですが、全国的にも会員数は増加傾向にあります。真の男女共同参画社会の実現には、まだまだ程遠い現実があることを、私たちはしっかりと認識していなければなりません。そして、すべての人にとって働きやすい社会となることを目指して、私たち女性自身の意識改革も必要です。その点、一般社会における女性管理職としての先進的な役割を担ってきた女性校長の役割は、最も重要だと考えます。一人一人が、後に続く働く女性教師をしっかりと支え、先輩方のように憧れの「ロールモデル」となるべく努力してまいりましょう。本大会の研究主題は、「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」、副主題は、「確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営」です。今年も、各地域を代表する優れた実践を通して互いに学び合い、高め合い、深め合う研修の場といたしましょう。

最後になりましたが、本大会に向けて、計画的に周到な準備を進めてこられた、山下尊子 北海道公立小・中・特別支援学校女性管理職会会長、福島由紀子 大会実行委員長をはじめ、北海道の実行委員会の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、全国からお集まり頂きました会員の皆様に、北海道大会の2日間を満足していただくよう、理事の皆様のご力強い御支援をお願い申し上げます。

報告事項

- 1 令和5年度中間事業報告…………… 庶務部長 山口祐美子
事業計画に従って、事業は順調に進行した。
- 2 令和5年度決算報告…………… 会計部長 村田悦子
執行状況について検討・協議され、承認された。
- 3 令和5年監査報告…………… 監査 中川佳美
監査の結果、帳簿・領収書など適正に処理されている。

理事会 顧問 挨拶

ただ今、パリオリンピック大会が開催されております。思い返せば前回の東京大会では、私が勤務している東京都はオリンピック・パラリンピック教育の推進に積極的に取り組んでおりました。その中で印象的だったことは、出会ったパラリンピアンや競技関係者の方々が全員、バラスポーツの振興を通して、多様性が認められる社会を目指しておられることでした。

創意工夫を凝らして「どうしたらできるのだろう」と、ルールを見直したり、道具を開発したりする中で、人間の限界に挑むパラリンピックは、私たちに社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や、発想の転換が必要であることにも気付かせてくれます。そして、この選手はどのようにこんなに頑張れるのだろうという疑問には、その答えが、選手の数だけあることから、違いを知るこのおもしろさや楽しさを教えてくれるのもパラリンピックです。

パラリンピックの多様性や共生社会への願いを実現させるためには、まず、私たちの無意識の思い込みを払拭する必要がありますと感じています。私たちの会の名称に「女性」とつくことに抵抗感をいだいている方もいると伺います。しかし、まだまだ、女性・男性の役割の思い込みや大きな不平等はこの日本社会に存在しています。そして、なんと、男女平等において世界第一位のアイスランドの女性たちは、「今でも男女の格差が残っている。」と認識していると知り、驚きました。この女性たちの意識の高さに感服すると同時に、男女平等の真の実現の困難さを実感いたしました。私たち女性校長は、教育者として男女の差をなくす、ということではなく、一人一人が公平に活躍できる真の共生社会を作っていくことに、力を尽くしていかなければならないと、強く考えます。

私たちのこの全国研究協議大会は、学ぶ意欲にあふれた校長先生方が集まっており、毎年、来ていただいた来賓の皆様には、「参加者の熱意に感心した」という、お言葉をいただいております。北海道の実行委員会の皆様のご熱い思いと実行力に私たち全員が応えるためにも、この貴重な学びの場を、理事の皆様と共に、より一層充実した会にし、学びを深めてまいりましょう。

協議事項

- 1 令和6年度活動方針案審議…………… 対策部長 江口 千穂
今後、活動方針に盛り込む内容等について、検討・協議され、承認された。
- 2 令和6年度事業計画案審議…………… 庶務部長 山口祐美子
第74回北海道大会、理事会（年間2回）の開催、本部会の役割、会報及び本部だより、活動状況報告の発行等、会計、渉外について、検討・協議され、承認された。
- 3 令和6年度予算案審議…………… 会計部長 村田 悦子
令和6年度予算案について、検討・協議され、承認された。
- 4 全国研究協議大会開催・発表 地区・県について…………… 対策部 松本 麻巳

	6年度（北海道）	7年度（東京）	8年度（青森）	9年度（大分）	10年度（関東）
1-1	岡山	鳥取	東京	中学部・福島	（中学部）
1-2	中学部・中国・広島	中学部・北海道	中学部・東京	青森	（九州）
2-1	福島	沖縄	千葉	高知	（近畿）
2-2	鹿児島	群馬	高知	和歌山	（中部）
3-1	愛媛	奈良	岐阜	北海道	（中国）
3-2	滋賀	富山	北海道	岡山	東京

- 5 第74回 北海道大会について…………… 北海道大会実行委員長 福島由紀子
令和6年8月1日（木）・2日（金）に開催される北海道大会は、494名の申込・参加となった。大会主題「自ら未来を切り拓き、共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」を受け、副主題として「確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営」を設定し、テーマに沿った3分科会により、各分科会主題および分散会協議題について提案・議論を通して主題に迫ることとした。
以上の提案がされ、承認された。
- 6 令和7年度 第75回 東京大会について…………… 東京都理事 田中 明子
令和7年7月31日（木）・8月1日（金）に開催される東京大会の主題・副主題、分科会主題・分散会協議題、記念公演等の大会実施計画案が提案され、承認された。
- 7 令和8年度 第76回 青森大会について…………… 青森県理事 竹原まり子
令和8年7月30日（木）・7月31日（金）に開催される青森大会の素案が提案され、承認された。
- 8 会則の一部改正について…………… 会長 井口美由紀
事務局長の任期について、理事会資料を参照

選考委員長報告

代表理事の承認を得て、東京都代表理事 小川真由美選考委員長より令和7年度副会長選出地区について報告され、承認された。

その後、山口祐美子庶務部長より令和7・8年度の監査について、報告され、承認された。

令和7年度 副会長選出地区	東京地区	青森地区	関東地区
令和7・8年度 監査選出地区	九州地区		

報告・連絡事項

- (1) 各都道府県の活動状況調査依頼について…………… 対策部 龍花 千鶴
- (2) 地区大会について…………… 対策部 北川みどり
- (3) 会報第117号について…………… 研修部長 近 香奈子
- (4) 会報第118号について…………… 広報部長 横濱 元己
- (5) ホームページについて…………… 対策部 田村香代子
- (6) 表彰状の贈呈について…………… 対策部 平林 里美

地区情報交換

各代表理事より各地区の活動状況が報告された。

令和6年度 全国公立小・中学校女性校長会活動方針

全国公立小・中学校女性校長会は、結成以来、義務教育の充実・発展に努めるとともに女性管理職の育成並びに女性教員の資質の向上や活躍の場の拡大を目指し、たゆみない研究と実践を重ね、今年74年目を迎えた。その成果は、我が国における女性管理職の登用と女性の社会進出に大きく寄与している。教育改革推進と男女共同参画社会の更なる促進に向けて女性校長に寄せられる期待は大きく、それに応えていくことが本会の使命である。

将来の予測が困難な時代において、持続可能な社会の創り手の育成や、日本社会に根差した教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上、誰一人取り残さない共生社会の実現に向けた教育の推進等が求められている。また、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成や、教育DXの推進、学校における働き方改革の推進等、新たな教育振興基本計画を踏まえ、「令和の日本型学校教育」の考え方を基盤とし、創意ある教育活動を推進することが重要である。

Society5.0の時代を生きる全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、新たな価値を創り出し、未来社会を創造する力を身に付けた日本人の育成を目指すために、家庭や地域、社会と連携・協働し、社会に開かれた教育課程の実現を通して教育成果を示していく必要がある。そのためには、いじめ・体罰の根絶、ヤングケアラーへの支援、特別支援教育の充実等の課題を解決し、子供の学びを止めない教育活動を継続できる体制づくりや、頻発する甚大な自然災害発生に際し、自ら身を守り、主体的に行動する防災教育を推し進めていかなければならない。校長は、これらの多岐にわたる課題の解決に向けて学校経営力を高め、全力を傾注し、国民の信託に応えていく責務がある。

そこで、本年度は、本会の研究主題を「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」とし、研究・研修活動等に取り組むとともに本会の充実・発展と活動方針の具現化に努めることを目指し、次の活動を重点とする。

1 全国公立小・中学校女性校長会の組織の強化と活動の充実

全国公立小・中学校女性校長会と各地区・各都道府県女性校長会との連携を一層密にし、組織の力を強め、活動の充実を図る。

2 自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進

「確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営」(令和6年度大会副主題)を推進し研究に努め、その成果を共有するとともに、各地域・学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図り、各地域の特性を生かした創意ある学校経営で具現化し、教育成果を示す。

3 創造的な教育課程の充実

GIGAスクール構想を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化による知識及び技能の習得を図るとともに、「思考力・判断力・表現力等」の育成や、「学びに向かう力、人間性等」を涵養するための教育課程の編成・実施・評価・改善を着実に進める。

4 教員の資質・能力の向上

「令和の日本型学校教育」を担う教員の強みや専門性を生かし、明確な人材育成方針の作成、適切な指導助言、研修体制等の充実を図るとともに、学び続ける教員としての意識を高め、社会から信頼され、尊敬される教員を育成する。

5 学校における働き方改革の実現

教員の勤務実態調査等を踏まえ、部活動の地域連携、支援スタッフの充実、教員定数の改善等、国・教育委員会・学校がそれぞれの立場において取組を着実に推進し、環境整備を行う。また、教員のメンタルヘルスへの対応や校務のデジタル化等の学校DXを推進する。

6 男女共同参画社会の促進

一人一人が個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の促進に積極的に取り組むとともに、女性教員の活躍の場の拡大と女性管理職の育成及び登用の促進を図る。



【第4期教育振興基本計画について】

“教育振興基本計画”は、平成18年に全面改正された教育基本法に基づき、政府が策定する教育に関する総合計画で、5年おきに国の教育政策全体の方向性や目標、施策などを定めるものである。「第4期教育振興基本計画」では、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとし、5つの基本的な方針が挙げられている。

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

【教師を取り巻く環境整備について】

令和4年度の教員勤務実態調査は、前回調査と比較すると、平日・土日ともに全ての職種で在校等時間は減少したものの、依然として長時間勤務の教師が多い状況である。学校における働き方改革の目的は、教師自身が学ぶ時間を確保し、子供たちへより良い教育をできるようにすることである。そのために『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策についてが審議され、教師を取り巻く環境整備の基本的な方向性がまとめられ、具体策が示された。

・学校における働き方改革の更なる加速化

取組状況の「見える化」やPDCAサイクルの構築、保護者、地域住民、首長部局等との連携・協働の充実が必要である。

・学校の指導・運営体制の充実

小学校中学年の教科担任制の推進、新卒教師の持ち授業時数の軽減、教科担任制充実に向けた定数改善等の実現が必要である。

・教師の処遇改善

学級担任の教師への義務教育等教員特別手当の加算、管理職手当等の改善が必要である。

【教師の資質能力の向上等について】

「教師の養成・採用・研修等の在り方について」の答申では、改革の方向性として、

- ①「新たな教師の学びの姿」の実現
- ②多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成
- ③教職志望者の多様化等を踏まえた育成・安定的確保について具体的な取組が示された。

【GIGAスクール構想の推進について】

わずか1～2年で一人一台端末の整備を完了したこと、7～8割の校長が効果を認識していることが成果である。地域・学校・教師間で大きな活用格差が生じていること、端末更新、学校ICT環境の改善が課題である。自治体間格差を解消するため、効果的な実践事例を創出・横展開し、GIGAスクールにおける学びの充実を図る。さらに、全ての学校が端末活用の「普段使い」に移行し、子供の学びのDXを実現する。学

習者用デジタル教科書の活用については、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につなげることが重要である。デジタルの特性を活かし、個別最適な学びや協働的な学びの充実につながるよう効果的な活用の推進が重要である。

【いじめ・不登校支援対応等について】

いじめの認知については、どんないじめも見逃さないよう全教職員で組織的に対応するとともに、関係諸機関との連携を図り、いじめ防止対策の強化を図る。児童生徒の自殺等については、自殺予防に資する教育の推進や関係省庁との連携が必要である。不登校児童生徒への支援については、10年連続増加傾向にあり喫緊の課題である。学びたいと思った時に学べる環境を整え、心の小さなSOSを見逃さず、学校を「みんなが安心して学べる」場所にしていこう。「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策『COCOLOプラン』」による不登校対策の推進が必要である。

【校長先生に伝えたいこと】

1. 学習指導要領改訂の方向性とキーワードの整理

小学校学習指導要領が改訂されて5年が経ち、振り返りの時期を迎えている。新学習指導要領の「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の主語は子供である。主体的・対話的で深い学び（手段）を通して、子供たちに身に付けさせるのは3つの資質・能力（ゴール）である。バランス良く3つの資質・能力を子供たちが身に付けるために教師としてどのように授業をデザインするか、もう一度立ち返って、先生方に自分の授業を振り返ってほしい。2030年の社会と子供たちの未来を見据え、複雑で予測困難な社会の変化を前向きに受け止め、感性を働かせてより豊かなものにしていくために、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認め、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手となるようにすることが求められる。令和3年に公表した「令和の日本型学校教育」の答申では、個別最適な学びや協働的な学びにおいて、自分が考えたことの妥当性を検討したり、先生や友達と検証したりする際に、一人一台端末を活用し、その特性や強みを生かすことが、新学習指導要領の趣旨を実現するために重要な役割を果たしているとしている。アナログの良さ、デジタルの良さを一体的に活用していくことで、子供たちの資質・能力の向上につなげていく。

2. 「まとめ」にかえて

人口の減少や少子高齢化、グローバル化、多様性と包摂の重視等、社会が大きく変化している中で、子供たちが未知の課題に対応するには、指示待ちではなく、自分で考え、自分なりの答えを見いだすことが大切である。そのためには、児童生徒自身の内発的な動機や意欲も大切にしていこう。また、総合的な学習の時間のプロセスのように、課題の設定からまとめまでの主体的な学習活動（探究）が上手いくくと、児童生徒の学力ややる気がアップし、進路やキャリアに役立つ。児童生徒の探究を支える先生方が、探究を不安がらずに、楽しみながら、子供たちの伴走者となってほしい。子供たちが未来の創り手となるよう、校長のリーダーシップと愛情が大切である。

記念講演 「多様性社会をしなやかに生きるリーダー術」 ～南極観測隊と客船乗務の経験から～

講師 第33次・50次南極地域観測隊・越冬調理 篠原 洋一 様



○オーロラが見たい

私は北海道札幌出身です。北海道大学の先生のオーロラの話が面白くて、「先生、もっとオーロラの話聞かせてください。」と話したところ、「いくら話してもオーロラの面白さは伝わらない。自分の目で見てきなさい。」と言われました。そこから、南極に行きたいと思いました。南極隊員の半分は研究者、半分は設営隊員ということを知り、その後10年かけて調理隊員を目指し、南極に行くことができました。南極からの帰国後も、調理隊員として「飛鳥」「飛鳥II」に乗船することとなりました。14年間で世界12周、世界70か国を巡りました。

○客船はダイバーシティ

客船には、お客さん850人、16か国480人のクルーがいます。このような多国籍のクルーで構成されるチームには役職等級制度のような仕組みが必要となります。当時、調理場にも80人が勤務していました。ある時、部下が遅刻してきた際、私は声を荒げて注意をしたことがありました。すると、仲裁役のセキュリティオフィサーから、「それでは、ただの喧嘩です。なぜ理路整然と言えなかったのですか。」とジャッジされたことがありました。これをきっかけに私は「多様性」について考え方を変えました。「あなたにいてほしいから注意をしているのだ。」という思いが伝わるよう工夫したり、普段からコミュニケーションをとり、感謝の気持ちを伝えたりして考え方や宗教の違いを認めて協調と融和を大切にしました。また、クルーの4割は女性です。パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、ジェンダーハラスメント、ナショナルリティハラスメント、レリジャスハラスメント等、これらには、細心の注意を払いました。

○一歩外に出ると危険な野外活動

客船は好天の場所にばかり行くため、オーロラが見られません。私は、再び南極観測隊に入隊しました。ここでは、2月から12月までの10か月は、30人だけの生活になります。何があっても助け合わなくてはなりません。過酷な環境下にあるため、入隊前に、「国内で助かっても南極では助からない場合がある」という説明を受けた際、私は「自分たちの一番の任務は無事に帰ることだ。」と感じました。入隊中は、雪上車を運転することもありました。自分の任務以外の仕事に携わることは余暇にもなり、メンタルヘルスの面からも大変よい時間となりました。

安全は、「急がず、焦らず、怠らず」そして「俯瞰してみる」癖をつけることの大切さを学びました。

○食事は「脳に喰わす」そして、メンタルを左右する

3か月間の夏調査の期間、カップ麺とビスケットのみの生活をしてきた調査隊は、小さな事故やトラブルが頻繁に起きました。そこで、200種類ものフリーズドライ食品を持参することにしました。バランスのよい食事をとることで、身体の健全（怪我をしない）、精神の安定（メンタルに支障を来さない）が保たれます。健康、安全は、無事帰還することにつながります。

○2・6・2の法則

日頃から、物事を俯瞰して捉え、「2・6・2」と呪文のように唱えています。例えば、仕事の態度では、2（できる人）、6（普通の人）、2（できない人）。生活の態度では、2（態度のよい人）、6（普通の人）、2（だらしない人）。協調性では、2（和気あいあいとできる人）、6（普通の人）、2（協調性のない人）。日数にも置き換えてみましょう。全てこれくらいの割合だと考えてみてください。うまくいく日、うまくいかない日もあります。私は、何にでも「2・6・2」に当てはめて物事を捉えています。多様性の社会には、いろいろな考えをもっている人がいます。自分の心も10に分けて、2（いいこと）、2（嫌なこと）になっているか、心も俯瞰して見る癖をつけてください。

○自分VS自分

自分の心をコントロールすること（アンガーマネジメント）を大切にしてください。日本では、人に迷惑を掛けないように育てますが、自分も迷惑を掛けるのだから相手を許すという考え方も大切です。寛容性と許容性が大事です。気の合わない人は必ずいますが、コミュニケーションをとり、すすんで声掛けをしていきましょう。

○終わりに

無事とは、「死なない」「怪我をしない」「メンタルをやられない」の3拍子です。楽しい毎日を過ごしてほしいと思います。学校の先生が、毎日、子供たちにわくわくする体験をさせてあげると、子供たちは将来、もっともっと希望がわくことになるのではないかと思います。

最後に、70年前にすでに多様性（ダイバーシティ）の良さを伝えた「一次隊 西堀隊長」の言葉を紹介します。

同じ性格の人たちが
一致団結しても、
その力は和の形
でしか増やせない。
異なる性格の人たちが
団結すれば
積の形で
大きくなる。

地区情報交換

【北海道地区】

北海道公立小・中・特別支援学校女性管理職会では、昨年度末に開設したホームページを活用し、総会時の講話等を資料と合わせて会員限定視聴として公開するなど、北海道全域の会員一人一人への情報提供と更なる研修の充実を目指している。8月に開催する第74回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会北海道大会に向け、全国から参加される皆様の笑顔と学びの深まりを大いに期待しつつ、北海道一丸となって準備に取り組んでいるところである。

【東北地区】

今年度より、東北地区は青森県と福島県の2県で活動することになった。昨年度の東北地区の理事会において、今後は、各県が全国大会の開催県となった場合に協力し合うということで地区としての活動を継続していくことを確認した。青森県は、令和8年度に全国大会開催を控えており、今年度の北海道大会にはオブザーバーとして3名が参加し、リハーサルを視察する。なお、福島県は分科会で研究発表を行う予定である。

【関東地区】

関東地区では、5月9日に埼玉会館において第1回役員・理事研究協議会を開催し、今年度の活動がスタートした。7月5日には、埼玉県の大宮ソニックシティにて、講師に教育研究家の妹尾昌俊氏をお招きし、令和6年度関東地区総会及び研修会を実施した。さらに、11月の正副会長会、2月の第2回役員・理事研究協議会において、令和7年度総会及び研修会（神奈川大会）に向けた方向性を確認していく。

【東京地区】

5月に総会を開催し今年度の活動をスタートした。昨年度は昇任1～2年目の副校長を対象にした調査研究を行い、管理職を担う人材発掘・育成について有意義な提案をすることができた。今年度も調査研究を進めるとともに、研究会で会員相互の交流と学びを深めていきたい。また次年度には、第75回全国研究協議大会「東京大会」が予定されている。多くの方の参加によって研修を深められるよう、開催に向け実行委員会を中心に準備を進めていく。

【中部地区】

今年度は、6月18日に令和6年度第1回中部地区の理事会をオンラインで行った。中部地区は10県あり、理事会のためだけに集まっていたことも難しいため、ここ数年は第1回の理事会をオンラインで行っている。

また8月9日には、中部地区公立小・中学校女性校長会研修会を岐阜で開催する。参集型の開催は6年ぶり、つながりの中で研修が深まることを期待している。

【近畿地区】

今年5月に第1回理事会を開催し、8月19日の近畿大会和歌山大会に向けて協議した。また、来年度開催の近畿大会京都大会についても進捗状況についての報告があった。加えて、府県理事で各地方の情報を交換し親交を深めた。

府県によっては、女性校長会の意義を深く議論し、方向性を検討しているところもある。近畿地区としても、不易と流行を踏まえ、会員が澁刺颯爽と活動できる在り方を模索している。

【中国地区】

昨年度、全国大会・中国地区大会を明治維新胎動の地である山口県で開催した。「志」「つながり」「しなやかさ」をもって生き抜く子供の育成を目指し、学校経営のあり方について、多くの参加者とともに協議することができた。

各県とも喫緊の課題である人材確保や人材育成等をテーマに講師を招聘するなどブロックや全体での研修会をもちつつ研鑽している。

【四国地区】

12月7日の4県参集による第27回四国地区公立小・中学校女性校長会研究大会愛媛大会開催に向け、各県理事と連携して準備を進めている。研究大会では、学校経営に関する取組発表をもとにした分科会と元マラソンオリンピック選手である土佐礼子氏、村井啓一氏ご夫妻の講演を予定している。6年ぶりに四国地区の女性校長が顔を合わせて交流し、共に学びを深めることのできる研究大会に期待を膨らませている。

【九州地区】

8月8日に「第57回九州地区公立学校等女性管理職研究協議会 福岡大会」を実施した。約500名が会場に参集し、オンデマンド参加が約200名となった。副主題を「人とかかわりながら、しなやかに生き抜く力を育む学校経営」とし、3分科会での実践発表と研究協議、全体講評と充実した研修となった。また、福岡ソフトバンクホークス元監督の工藤公康氏に、人材育成に関する講演をしていただいた。

【中学部】

各地で義務教育学校が増えていく中、9年間を見通した広く深い視点での学校経営が求められつつある。

また、変わらずに小学校と比して中学校の女性校長は数が少ない。女性には聡明で優秀な人材が多くいるが、謙虚さゆえに目立たず、管理職を希望しないことが多々ある。そうした優秀な女性を見出し、支援し、育成しながら彼女たちの活躍を後押しすることが、我々の重要な役割となる。

令和7年度

第75回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会 **東京大会**

大会主題 **自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る
日本人を育成する学校教育の推進**

～多様性を認め合い

持続可能な社会の創り手として未来を創造する力を育む学校経営～

期 日 令和7年7月31日（木）・8月1日（金）

開催地 東京都目黒区

会 場 ウェスティンホテル東京



分科会主題および分散会協議題

分科会	分科会主題	分散会協議題		提案・司会
第1分科会	「生きる力」を育む 学校経営	①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実を図り、 自ら未来を切り拓く力を育む学校経営	鳥取県
		②	多様性を認め合い、グローバルに共生できる 資質・能力を育む学校経営	北海道 (中学部)
第2分科会	教職員の資質・ 能力の向上を図る 学校経営	③	教師としての専門性や指導力の向上を図り、 教師の自己実現を目指す学校経営	沖縄県
		④	教職員の参画意識・協働意識を高め、 組織の活性化を図る学校経営	群馬県
第3分科会	新たな課題に取り 組む創意ある 学校経営	⑤	学校組織マネジメントを生かし、 新たな課題に取り組む創意ある学校経営	奈良県
		⑥	持続可能な社会の創り手を育む学校経営	富山県

令和6年度 第2回 理事会のお知らせ

期 日 令和7年1月18日（土） 午前10時00分から

会 場 東京・アルカディア市ヶ谷

**第76回 全国公立小・中学校女性校長会 全国研究協議大会
青森大会**

期 日 令和8年7月30日（木）・31日（金）

開催地 青森県青森市

会 場 ホテル青森・リンクステーションホール青森

